まくわうりのキャラクター
オリメロちゃん

Orimelon

府中と「まくわ瓜」の関わり

マクワウリが描かれた浮世絵

まくわ瓜は江戸時代に「水菓子」として喜ばれ、鳴子瓜、本田瓜などの産地ができていた。府中では、江戸時代初期から将軍家に納めるためのまくわ瓜農場「御瓜田（ごかでん）」が設けられ、本場の美濃真桑村から種子を運び、現地の農民呼び寄せ、指導を受けながら栽培がされていた。

「御瓜田」の場所は本町・番場宿・新宿の府中三町と、是政村内の水田だった。多摩川沿岸で、上流から運んだ砂壌土が深く堆積していてまくわ瓜の栽培に適すること、水穂と交互の栽培することによって連作障害が避けられること、さらに江戸城に通じる甲州街道が近いこと、などが最適な条件を備えていた。ここの府中領の「御瓜田」から毎年、1500 個にも及ぶまくわ瓜が江戸城に運ばれていた。この府中瓜は、城内での消費だけでなく、将軍と大名の間で下賜（かし）ー拝領（はいりょう）という形で儀礼化もしていた、各地大名の記録に「府中瓜御拝領」記録がある。中世以降に、瓜は神社仏閣への供物として一般的であった、上方が政治の中心であった時代に美濃真桑村が担っていた御用瓜の用途を、江戸に幕府が開かれて以降、府中瓜がその用途にあったようだ。

出典　江戸・東京農業名所めぐり（農山漁村文化協会）
街道の日本史 18　多摩と甲州道中（吉川弘文館）

江戸時代、御殿地地区の周辺で栽培されたまくわ瓜は幕府へ献上されていた。

ふるさと文化財課　提供

ふちゅうあきんどじゅく
府中商人塾